

参加自由

（プログラムの内容・順番は変更される可能性があります。）

日時

2013年
2月12日（火）
10時～16時40分

場所

人文社会科学部B棟401



お問合せ

堂園俊彦（人文社会科学部社会科学）
jtdohzo@ipc.shizuoka.ac.jp

■ 午前の部 10:00-12:00

伊藤 五月	演劇のムーブメントと社会の相互関係
伊藤 優公	高田渡が日本フォークソング界にもたらした意義とは
角北 迅	道德世界に含まれるのは人間だけか
佐野 晋理	行為の始まりと幸福
佐野 美月	セザンヌの記憶の作用から見る線と色彩の融合
高木 はるな	道德的主体としての人間の義務―「自然の権利」論批判から―

■ 午後の部 13:00-16:40

高橋 容子	ユングのアニマとアニムス―フェミニストの批判を受けて―
谷口 彩佳	平安時代における阿弥陀来迎図の成立と役割
田 豊	ウォルツァー正戦論が守ろうとする正義とは
根木 佑実	労働、歴史、障害者から考える性の語り難さ
福原 由依	自殺―死を選び取ること、意味を託すこと―
松原 亮介	クオリアを物質に還元することは可能か―物的一元論の批判的検討―
山村 篤史	死への意識と、生の充実―いまを生きるためのいのちの思想とは―
山田 恵美	「苦」を通しての自己肯定
渡邊 彰	生命の神聖性と自律の尊重―ドゥオーキン『ライフズ・ドミニオン』の批判的検討―
相原 真夏	虚偽の言表が語るもの

卒論・修論発表会